

(資料)

本多静六口述『木曽風光調査概要』(大正二年前後)の現代語訳
 Texts Translated into Modern Languages of "Overview of Landscapes Survey in the Kiso" around 1913

Kozue TAKEUCHI* Mami KATOH* Kurumi KOBAYASHI* Takato YOKOSEKI*

*長野大学環境ツーリズム学部

【底本】

名称：『木曽風光調査概要』

著者：本多静六口述

刊行：欠年

項数：二十六項

所蔵：東京大学大学院農学生命科学研究科森林風致計画学研究室

備考：底本の刊行年を大正二年刊行雑誌『太陽』十九巻六号および大正二年刊

行図書『長野県の林業』を基に想定

【作業方針】

見出しと全文を作成した。見出しは全文から抽出した。書字方向は、原文のとおり縦書きとした。一行あたりの文字数は、本稿の様式に適合させ改変した。字体は、現代の常用漢字体に統一した。踊り字については、現代語に組み直した。現代的な読み易さを加味の上、語尾を簡素な表現に改めること、長文に句読点を付加すること、など修正を施した。明らかな誤植は正當な表現に訂正した。本文は漢字と片仮名で記されていたが、片仮名を平仮名に改めた。なお、難読な漢字には、角括弧「」を附して読み仮名を示した。

【見出し】

総論

其一 避暑地

其二 遊覽地

各論

其一 福島町

(一) 小丸山

(二) 関山公園

(三) 福島町の後方位する城山

(四) 福島町の市街

其二 日義村の大原

其三 徳音寺

其四 藪原附近

其五 寝覚の床

其六 蘇挾「そきょう」一帯

其七 第一回遊線の内賤母「しずも」御料林「こりょうりん」

其八 第二回遊線中常盤橋に至る王瀧道路

其九 鞍馬「あんば」の景

其十 水ヶ瀬

其十一 御嶽神社
其十二 田立の瀧

備考

- (一) 避暑地、遊覽地、回遊線
- (二) 乗車
- (三) 表示、案内、名物産
- (四) 路傍のみみぢ、さくら

【全文】

総論

抑も山水風景は、世界的美術にして一國若しくは一個人が破壊し若しくは占領するを許さず蓋「けだ」し自然の山水風景は、天の造る所なれば世界各國の人々何れも之を楽しみ得ざる可らず随つて天然山水風景を有する國家若しくは人民は益々其美点を發揮して広く之を世に紹介開放し其保存維持を謀ることを義務ありとす。

彼の佛國巴里市「フランス・パリ市」に本部を於ける万国風景保護協會の如きは専ら天然の山水風景の保存に努め世界各國をして広く山水風景の維持保存に努めつつあり、加之天然の山水風景は又之を所有者より觀る時は實に天興の大資本にして巧みに之を利用するに於ては巨大の生産し山村水郷各遊園的設備をなし盛に外國の遊覽客を誘致し此等旅客避暑客の為に大に収入を増加し今日に於ては欧州中富強の國の一として計へらるるに至れり。

今茲「こゝ」に長野県が木曾谷に於ける風光調査を企てたるは一面に於て世界的人道の義務を果すものなると同時に此木曾谷又は県の經濟上否寧ろ我が帝國經濟上の状態に鑑み真に機宜を得たるものと謂はざる可らず然るに本調査たる蘇峽二十余里の間に亘り自然的風景美の現存せる個所と然らざる個所との調和を保ち之を學理に鑑みて千百年の後迄も変らざる方針を定めざる可らずと同時に一方には又現時に於ける一般の嗜好と經濟状態とに徴「め」し其施設の容易に実行し得るものたらざる可らざるが故に細微の点に到る迄周到の注意を拂と以て其本末重を考察し精細に之を調査せざるべからず。故に此調査たる實に容易の業にあらず

未熟なる余輩の如き到底其任に堪ふる所に非らざるも我國には未だ此等調査に適する専門家なるものあることなく余輩誤つて本調査の任に當りたる以上は努めて虚心恒懷以て自然の教ふる所に従ひ我が脳裡に浮びたる要領を述べんと欲す。

先づ大体に於て木曾の本谷所謂木曾路南北二十四里に亘る沿道に就き觀るに其天然の風景は既に殆ど破壊し尽くされたりと云ふを得べし俗語に「心細いよ木曾路の旅は笠に木の葉が舞ひかかる」なる語の風流を偲はるる個所は今日實際發見する能はず多くは桑園麥圃風其他の農耕地と變して樹林を見ることなく只僅かに賤母御料林中の沿道約卅町許りの間のみ僅かに昔時に於ける木曾路の佛を留むるものあるに過ぎず彼の佛國大思想家ルーソーが「自然の手によりて成れるものは総べて美なり人の手を経て腐敗す」と道破せる現象は遺憾なく木曾路に發現せられたるなり但し今日尚木曾の本谷を距「へだた」りて人煙稀少なる枝谷に入れば尚木曾五木の鬱蒼たる美林を見るを得べきも先年汽車全通以來一曾迅速に此等森林の伐採利用せらるる傾向あるが故に今日尚幸に残存せる天然の美林中木曾風景上に必要なる部分は将来に於ても永久に破壊せらるる様子を施業に制限を加へ更に一般木曾谷に於ける風景美を景美を回復維持する方法を広く世界に紹介し之を利用するの途は大別して避暑地及び遊覽地の二種に区分し得べし。

其一 避暑地

避暑地としては大体に於て福島町より木曾本谷の上流島居峠に至る間を可とすべく殊に日義村大原の如き海拔三千尺に達し氣候の冷涼なる、清冽玉の如き用水の豊富自由なる、人煙の稀少なる、廣大なる平原にして眺望の佳絶なる事等は別荘地として好適の地なり例令避暑に好適の地なるも別荘地の附近に農家の多き時は牧畜施肥等により諸種の汚物を散乱し臭氣を送り殊に夏季は蠅多くして来遊者の嫌惡する所となるを以て避けざる可からず。

島居峠附近も氣候上別荘地として適當の個所ありと雖面積狭少に過ぎ又敷原の上段は面積廣大なるも一帯畑地なるを以て別荘地としては大原に劣る尚王瀧村の奥水ヶ瀬附近一帶の森林内は今日の森林を濫伐する事なく只交通の便を開くに於ては将来最も適當なる避暑地別荘地となるべし。帝室林野管理局は此点就て十分留意あらんことを望む。

其 遊覽地

遊覽地としては木本道なる賤母御料林と田立の瀧及び妻籠の城山を連繋せるものを第一の回遊線となすべし即ち田立瀧より賤母御料林の国道を経て城山に攀遊線となす。

他の第二及び第三の回遊線は来る四十七年度より敷設せらるべき御料局の森林鉄道を利用し三岳村より水ヶ瀬を経て鯨川並に濁川温泉に至る森林美を視察して王瀧村の鞍馬及三岳村常盤橋等の風景を採るべき一線と王瀧村より千秋街道に出て阿寺若しくは小川の森林鉄道に結び付くる回遊線を造るに在りとす。然れども今回の調査は時日少く精細に此辺を調査する能はざりしは遺憾なり乍併将来御料林施業の進むと共に森林鉄道を敷設せらるべきを以て之を利用し此等の回遊線を設置せらるるは信して疑はざる処なり。

各論

其一 福島町

福島町は木曾本谷の中心市場なれば将来他の木曾谷一帯の風景利用の進歩に伴ひ自然に発達すべきは勿論なるも更に自ら進んで幾多の設備を要す其重なるものを挙げれば次の如し。

(一) 小丸山

小丸山は福島町の遊園地、眺望地として又護学校生徒の運動場として適当なり天然の地勢三個の丘陵起伏し其中央に凹垣なる場所あるを以て周圍の丘上を觀覽場となし中央部を少しく地均らしをなして遊戯場になし丘上には山櫻、もみぢ、ほおのき等の二三間以上の大木を二三株づつ寄せ植えとし日陰を作るを可とす。而して運動場内及び其附近は前記日除樹の外は一回雑木を刈り拂ひて草と共に丁寧に焼き拂ひ其残存せる樹根は之を掘り取りて地面を平均し雑草即ち茅又は草のみを発生せしめ其雑草を年々五回以上成るべく屢々「しばしば」刈取るに於ては遂に庭芝の如き柔軟なる短草を有する美しき原野を得べし。又現在茶亭の附近は諸種の草花又はつじ類を植込む時は一層美觀を添ふるを得べし。尚運動場に供せざる部分一帯も雑木を掘取りて雑草のみの原野となし年々丁寧に焼き拂ひ且屢々之を刈り取るに於ては雄大な原野の風景美を發揮し得べし。

(二) 関山公園

関山公園は現在の方針の如く櫻樹を植え付け觀櫻に供するの外大に之を利用し得るの見込立たず。

(三) 福島町の後方位する城山

福島町の後方位する城山は幽縫なる美林にして既に安全なる林道を有し最も宅便利に木曾の美林を示し得るの森林なれども現在の状態にては幽縫に且、余りに地味過ぎ普通一般なる遊覽者の嗜好に適せず故に少しく之を手入改良するの必要あり。即ち其方法として本林の下方大部分を自然的森林植物園とし林道の両側に遊歩者が見得らるる樹木三亜鉛板にペンキを塗りたる、長さ五寸幅二寸の札を樹幹の高さ五尺位の位置に釘付けとし、且札には樹名を假名、漢字、及び羅旬「ラテン」名の三体書き且共著しき大木に、樹齡、樹高、樹太等を附記し置く時蕃に学生生徒の修学旅行地となるべきのみならず一般の遊覽者にも大に智識を与え自ら趣味を持たしむることを得べし。此等樹園の仕事、木曾山林学校の経営にゆだねるような亦妙策となす。

何本林内に、今日既に多數の樹種を有し木曾に於ける主要なる種類を盡せるが如きも更に上部樹林に疎開せる所に、本林三不足せる樹木殊三木曾山林中に存する灌木「かんぼく」雑草の類を補植する時は直ちに数百種を具備せる一大植物園となり人は、此城山内において木曾山林の全植物を觀得るの便を生じ此点のみに於ても大旅客を吸引し得べし。抑此自然的森林植物園は近時欧米に盛んに行はるる所にして自然・森林内を逍遙「しょうよう」しつつ、植物を学び得べきものにして却方箱庭的植物園に優るの効用あるものなり。只林内を充分清潔にさせる時は却方不快の念を起すものなるを以て能く林内殊に道路の掃除を怠らざる様に注意する可からず。彼の路傍に弁当の折箱紙屑等の放擲「ほうてき」しあるが如きは殊に之を掃除し一所に集めて焼捨てる方法を採らざる可らず。但し道路外の林下、時々雑草を刈拂ふみにして彼の落葉、蘚苔又、可憐なる下草類の如きは却て之を自然の儘に存置する可とする道路面の如きも秋冬の間、落葉を愛して屑紙其他の枯枝等のみを取捨つる可とす。

尚下部の稍本狙なる林内一に町歩の地を書して簡單なる柵園をなし鹿野猪又、猿等を飼ふを可とす。此等は何れも愛嬌ある動物にして小兒婦人等の好み

で来遊するものなり是亦近來欧米に流行する自然的物園の一種なりとす。

総て公園内設備は来遊ぶものとして最も容易に園内の道路並展望地、瀑布其他遊覽すべき場所の位置の距離を明からしむ必要あるが故に園の入口又、裾要の地には木又は紙に略園を書きて之を掲示し道路の距離諸設備の位置等凡て一目瞭然ならしむるを要す。又風景縮端書を販売し自然広告の一助とせば、更に妙なるべし。

尚茲に些細なる事柄なれども城山山林の下部散見する事は甚だしく悪感を興ふるものなれば是等は他より見えざる様あをき、まさき、ひば、いちい其他常緑樹を密植して之を隠蔽する様なさざる可からず又公園内には、要所に便所を設くる必要あるは勿論なれども直ちに林内道路より見えざる様其周囲に常緑樹を植えて之を隠蔽すべし。但し其隠蔽せる中に便所のある事は容易に解し得る様目標を造るべし。

(四) 福島町の市街

福島町の市街木曾谷の中心なれば漸次蘇狭の他の部發達に随ひ今后改良を要するの点少なからず就中旅館の如きは其第一にして旅館の良否は将来遊覽客吸収上最大主因となるを以て大改革を加へざる可らず。殊二便所、磨硝子等を用ひて内部を明るくし又清潔になすこと又便所のは内より鍵引掛くる設備をなすこと、風呂場及び洗面所を清潔になすこと宿料其他の費用を各等分ちて一定すること等は最も急務なかりとす。尚町内の道路より見ゆる便所流し元基地の不潔物は一切從來より見えざる様板園をなし又はあをき、まさき、いちぬ等の常緑樹を植込み町内又は町外散策保養の遊客に対し不快を感じさせない様努まざる可らず。欧州にては、大低市街の美化に関する市街美化委員なるものありて諸種の外觀裝飾方法に關し指揮干渉を加え居る。以て荷も市街の秩序を乱し、又美觀を損するが如き建築及着色物等の（広告採正含む）は直ちに之ら改造せしむる事とす。故に出来得べくんば町内の衛生並に美化委員を設置し諸種の裝飾に關し干渉を試むるを可とす。彼の道路附近に於ける婦人の用便、肥料溜等、甚だしく来遊者の嫌厭を買ふ所なれば可成注意して是等を改良せしむべし。

要するに避暑地其他遊覽地として、清潔と懇切とは最注意すべき点なりとす。

其二日義村の大原

日義村の大原は思つに「太古駒ヶ岳連嶽の崩壊押出しにより一帯に土砂の流出せる土地にして木曾川沿岸中比類なき大平原なりとす。位置は海拔三千有余尺にして面積又三吉町歩余り同村原野区有地にして氣候冷涼加ふるに土性、花崗岩の分解よりなるを似て土砂清浄水質清冽夏季は雨量少なきも土流より原野の中央高所を通して奔流せる深水は無敵に之を分派して隨意に利用し日常の用水は勿論各別荘の他沼用にも十分なりとす。蓋し此用水の浦洩豊富自由なる点は到底彼の富士見又は、軽井沢の遠く及はざる所なりとす。殊に土地使用料の如きも現在極めて低廉（現在の借地料一反歩「いつたんぶ」年に「円四十錢乃至円なり」と云ふなれば今より規約を設けて急に之を高むるの弊を防ぐに於ては別荘地として好望の個所たるを疑はず。而して将来施設の方針としては先づ此平原を縦に貫通する主要なる車道を造り其他の道路も大体に區劃「くかく」予定し置き以て別荘建造の地割をなすに便ならしむべし又避暑客誘引を第一着手として先づ地方の有力家又は村に於て所謂さういとして数個の貸別荘を造るも一法なり。

尚避暑客の慰籍法としては其附近に名所旧跡として知られたる明星岩、手習天神、義仲公旗揚げ八幡、小枝の松、巴ヶ淵、砂ヶ瀬の紅葉、今井兼平の墓等に遊覽的設備（即ち道路、休息場、立札等）をなし自由に探勝せしむる事甚だ必要なりとす。只此大原に於て一の欠点となすは此原野に牛馬を放牧するが為め蠅類の多き事なりとす故に此地を将来避暑地として警昌せしむるには、放牧を禁ずるか又は他の方法により此蠅を減ずるの方法を講せざる可らず蠅はもと蛆より孵化するものなれば蛆の生活所となる牛馬糞其他不潔地、停滞せる濕地等に清潔法を施すに於ては遂に之を絶滅し得るものなり。

其三徳音寺

徳音寺は氣候冷涼にして岩間より湧出する泉水清冽にして他に類例少なき好堂宇なれば暑中休暇中避暑学生等の用に供するは甚だ當を得たる事なり。殊に夏季講習会を開催するは最も可とす此附近一帯氣候清涼にして避暑に適する個所なれば寺院其他民家の座敷等を清潔になし之を簡易に貸付くる方法を採るは避暑客を誘致する方法なりとす。

其四 藪原附近

藪原駅海拔三千三戸呎「フイート」にして我国停車場所在地中最高地の一に數へられ尙其上部鳥居峠の如きは海拔四千四百呎の高燥地にして氣候冷涼且附近の清潔なるは別荘地として可なりと雖、諸物資の供給不便なると概ね嶮岨地「けんそち」にして土地狹隘に過ぐるは惜むべし。又藪原村上部一帯地は面積に於ては十分なりと雖、己に開墾して一帯に畑地なるは別荘地として欠点なりとす。由来避暑地は其別荘の付近一帯の原野なるか又は美林なるを要し肥培耕耘を要する田畑の間にては十分の發達をなし難きものなり。然れども天然の氣候は甚だ冷涼なるにより藪原の上部より鳥居峠附近が多少の別荘地となるべき見込無きに非らず故に之が準備として両側に適當なる並木を植えて散歩の便に供すべし。其樹種は未だ確定し難んと雖、成る可く多少の利益を収め得る柿其他果樹類を選むべし。而して並木植付に付きて注意を要するは全て並木とすべき樹木は數年間畑地に於て二間内外の高さ枝下七尺位に養成し置き數百本同時に植付且其地方の青年団等に之を保護せしむるを可とす。然る時は割合に盜伐等の憂少なきものなり。

其五 寢覺の床

寢覺は遊覽地として已に有名の個所なるも保護の方法宜しきを得ば尙今日より一層の美觀を發揮するを得べし由来該所は岩石より成りたる為、其固有の形状を破壊失墜せられざりしも其周囲の樹林美は殆んど己に破壊し尽くされたりと云ふを得べし。故に今後に在りては床の周囲附近一帯の森林美を回復して以て床と川との風景に調和せしめざるべからず。即ち今日の寺院の對岸一帯の地域は扁柏、花柏等の針葉樹を天然的に植栽し且民家又は畑地等の見えざる様岸上の上部を直ちに森林を以て被ひ川と床との俗了を防がざるべからず。尚現時寺院の境内は頗る寢覺の展望に適當も崖上に新造せる手摺高きを以て展望を妨ぐ觀覽者に不快を感じしむるを以て適度の高さに切り下ぐると同時に崖壁に生ずる雜木及び竹の枝葉は其切口の見えざる様巧に切り透し以て展望に便ならしむべし。

寢覺の床より上松駅に至る道路も亦改良の要あり。即ち今日国道の両側に適當の並木を植付けて以て夏季を涼しくし且春秋の風致を増さしむべし尙寢覺寺の門前より国道に出づる道も余りに狹隘且不整なれば之を一問以上の道幅に改良し両側に前同様並木を植うべし。道幅一間に過ぎざる場合には並木は道外の畦畔又

は畑地に植うべし尙本道の外に現在の近道を改良して副道となし以て來遊者をして往復同一線に依らず常に新たな道を行せしむる様になすが如きは最も妙なり若し夫れ道幅狭くして並木植栽の余地無き場合には両側の桑樹を高木仕立になし又柿の木の類を道端の畑に植えしむるも可なり。要は只暑に炎暑の苦を忘れしむる為に適當の庇陰樹を存するを以て目的となすべきなり。

其六、蘇狹一帯

所謂木曾路の本道は已に述べし如く天然の風景美を破壊し尽くされたるも将来に於て能く要設備を怠らざる時は漸く木曾本谷に於ける天然の風景回復するを得べし。但新たに植付けたる樹木が生長して風景美を添ふるに至る迄には甚だ長年月を要するを以て少しにても其今日に残存する風景美は周到なる注意を以て施業上に制限を加へ之が保存に努むると共に更に之を補足する道を講じ又已に破壊せられたる所と雖其風景美を回復する価値ある所には宜敷今日より之が回復の道を講じ漸を以て此蘇狹一帯に於ける天然風景美の回復改良を施さざるべし。

尙又名所舊跡「かけはし」寢覺の床及び卯の木澤の御料林其他一般の來遊者の意に投ずる個所の如きは汽車中に於ける展望亦極めて必要なれば各停車場には必ず此駅より何分時先きに何々を過ぎ何分時にして左方に何々の舊跡ある等の揭示をなし置きて車中の旅客に先づ注意を喚起し置き更に各名所舊跡等には最も見易き場所に其名所の立札を設け置くべし。停車場の立札は近く詳しきを可とするも汽車の疾走中に見せしむる立札は線路より數十間離れて大きく簡単に書くを要す尙繪圖書其他によりて名所舊跡の位置図を作り広く販賣せしむるが如きも木曾路の風景美を紹介するには必要な方法なりとす。

其七 第一回遊線の内賤母御料林

賤母御料林は木曾街道中天然の森林美を存せる唯一の天然林にして之により今尙古への木曾路の風景を代表するを得べきものなり。故に此森林は嚴に伐採を禁ずるの方法を講じ風致若しくは土砂打止の保安禁伐林として永久に現状の儘保存せざる可らず。特に右森林の大部分たる岩石磊々たる傾斜にして一度之を裸出す時は容易に再び森林となすこと難く一方には八街路に対し岩石崩壊の危険もあれば是非其街道の両側街道より見ゆる所は之を禁伐林となさざる可からず、幸に御料局に於ても今日は之を保存するの方針なる由なるも何時如何なる支配者の出

で来りて之が伐採を企つるやも知る可からず。既に先年賤母御料林の一部を伐採せし痕跡さへある程なれば今日に於て永久に亘る安全なる方法を講ずると同時に更に二公園林の設備をなすを要す。

林内の国道中風景の観るべき處緑陰「しよりよくいん」の掬すべき邊には自然的腰掛を造り自由の休息に委すべし。尚賤母御料林中の国道と木曾川との間に広き不林の存する所には国道より分派せる遊歩道を木曾川に沿ふて作り緑蔭中より碧潭「へきたん」を展望すべく各所に岩石又は倒木の根株等によりて腰掛を設け休息に便ならしむ可し。

賤母御料林内の国道は木曾谷中の回遊線路として最も良好にして右に田立の瀧を繋ぎ左は妻籠の城山に連絡する主要遊覧地なるにより林内を美化する為、路傍の各所に二三株づつ塊状又は散生的にもみじ又はやまさくらの類を植え其林冠を疎開したる個所にも亦紅葉樹或は花木を補植し以て春秋の風致を増すべし。由来賤母御料林には瀧葉樹の紅葉すべきもの多く秋季の紅葉は極めて有名なりと雖、天然生のものみにては吾人遊覧に便なる所にして其不足せる場合少なからざれば道路より見ゆる緑蔭間の岩上にもみぢ又はやまさくらを植え又は路邊の岩石上につつじ、どうだんつつじの類を補植し其他針葉樹のみにて余りに黒色のみ勝れたる部分には所々は一二株のみみぢ、やまさくらの類を混植して以て其風景を活躍せしむべし。但し何れの場合にも此等花木の補植には恰も天然に生すべき位置を選び且天然生の如き状態に栽植し一列又は同距離になして人工植栽なる感を引きしむる事なき様注意すべし。

「犬歸りの嶮」「いぬかえりのけん」等には岩石又は樹木に地名を表示し置く可とす。

妻籠の城山は第一回遊線中にありて展望甚だなれば道路を改良し路傍の森林を培養して日蔭樹をなさしめ以て登攀者涼を与へ上部にも亦飲料水其他遊園的設備をなすべし。彼の小鳥を捕ふる小屋の如きは一の名物として存置し来遊者に見せしむるを良とす。尚其下部なる宇沼田の果樹園の如きも之を改良して縦観せしめ且其生産物を一定価格に販賣するに於ては又客を呼ぶの一段となるべし尚此城山には回遊者は一方より上れば他の反対の側に下りて全く道を損せざる様道路を造ることを要す。

其八第二回遊線中常盤橋に至る王瀧道路

第二回遊線中常盤橋に至る王瀧道路は現今殆んど俗了し終り路上汚物散乱岩石露出し歩行容易ならざれば御嶽登山者の為又は木曾森林美探勝者の爲めに大に改良の要あり尚成る可くは数年後に敷設さるべき帝室林野管理局森林鉄道を利用し其往復に便せしめざる可らず。

福島町より約二里の無趣味なる悪道を過ぎて達する常盤橋の清漂橋上深緑を翳し爽快を感じしめ此附近唯一の名勝地なり。只若し一度此岸上の森林を破壊する時は全く枯骨を旱天に曝すの觀あるを以て此森林は永久的保存の法講ずるの必要あり。

其九鞍馬の景

鞍馬の景は常盤橋と同じく第二回遊線中にありて常盤橋より上流武里西町二位し其風景は木曾谷第一と稱すべく其溪流屈曲敷町に亘る両岸は屹立数百尺なる岩上に深緑の天然林を有し何等人工を加へず何等塵埃を止めず全く俗界と絶てる天然美を現はす若し夫れ扁舟「へんしゅう」に棹「たく」して碧潭に望まんか鑿「さく」もて削り成せるが如き高さ数百尺の岩壁は藍色の水と相映じて秀麗比すべきなし。扁舟進むに従ひ溪流の四周全く断崖に對「ほう」ぜられ僅かに上天の一方のみ断崖上に立てるひのき林の間より見得るに過ぎず加ふるに溪流中の岩石は或は寢覺の床に似て俗に小寢覺と稱せらるるあり。或は奇岩怪石の溪流を遮りて一大瀑布をなし恰も日光龍頭の瀧に似たるあり。其左岸数百尺の高さなる岩壁の罅隙「かげき」より直下する絹糸を垂れたる如き瀧や岩間、木の間に咲乱れたるつつじの花八線樹の影と共に青潭に沈みて鮎魚花毛氈上に躍るの風情あり。眞に是れ千尋の溪谷中に在りて神仙に導かるるが如し其状世界の絶景と稱せらるる彼の奥太利のえともんどぐらうに似て之に勝るものなり。彼のえともんどぐらうには婦人の船子ありて客を誘ひ碧淵は魚鯨をなすの便あり遊覽者をして舟中鮮魚を調理せしむるの設備あり。鞍馬の景も如斯「かくのごとく」舟筏「しゅうばつ」の設備を自由ならしめ魚鯨の觀あらしめば何ぞえともんどぐらうに譲らんや宜しく今より魚鯨組合を設けて魚鯨を制限し両岸は禁伐林として永久に保存し只二三隻の小船を置き其船に乗る道と船より降りて登る道と完全になすのみにして一切新道開墾等土工を禁じ以て此無類の絶景を損傷するを避けざる可らず。今日の如く単に鞍

馬橋下より俯観するのみにては此天景の眞を知る能はず須らく容易に船にて遊覽し得る設備を要す。

其十水ヶ瀬

水ヶ瀬も亦第二回遊線内に在りて鞍馬に垂ぐる絶景なるも惜い哉岸上の森林を伐採せる偽め漸やく俗了去らんとす。只其上流鹹川濁川には今日尚広大なる美林を備ふるを以て回避地に編入し此等天然の美林の溢伐を禁ずるに於ては将来交遊機関の発達に供ひ避暑又別荘地若くは遊覽地として自然に静かなる森林美を探るの地いとなるべし。抑も欧米人士の如きは鬱蒼たる大森林中に避暑し朝夕林内を散策するを好むもの多ければ将来森林鉄道の敷設せられて尚此附近の森林を保護し得ば必ずや外人向の好避暑地となるべきものなり。

其十一御嶽神社

王瀧村社御嶽神社は御嶽神社の郷宮にして村落の上部に位し境内老樹鬱蒼として来遊者をして思はず森厳を感じしめ俗界を脱出せるを覺えしむ而して此神社は維持の方法確立せる点より見るも一層格を高め境外瀧氏の所有森林と併せ風致保安林として保存するの必要を認む。

其十二、田立の瀧

田立の瀧は多種多標且壮大なる瀑布を同一地域内に觀得ると且瀧の附近の自然的美林なるとに於て蓋し比類少き瀑布と称すべきなり。世に瀑布の大なるもの美觀なるもの少なからず彼の日光の如きは瀑布を以て有名なりと雖何れも各所に散在し少なくとも六七里を歩行するにあらざれば數種瀧を見る事能はざるなり。

然るに田立の瀧は僅か十數町の間に不動瀧、天河瀧(一名百間瀧)、霧ヶ瀧、螺旋瀧其他數ヶの瀑布を集め其多くは數十間の大瀑布にして各異なる美觀を呈し加ふるに其位置たる海拔三千三百尺乃至三千八百九十尺間に御料林八百余町歩の木曾五木の美林中に在り攀「はこ」登者をして先づ其森林の美に打たれしめ、更に進で瀧に至れば四週の蕨藪「おうとう」たる森林と相俟ちて一層山水の風景を發揮せしむるものあり。其數個の瀑布を賞し更に最上の瀧の上に至るや清冽なる岩石の間に幾多の小寢覺床、小龍頭の瀧、小合満ヶ淵を存して之を徒渉するの快云ふ可からざるものあり。故に如斯の勝景の地は努めて設備を完全にし世界の探勝者をして自由に踏破せしむるを得せしめ以て広く紹介するを適當とす。而して将来

の設備としては御料林に於ては今年年中に瀧麓まで道路を開設することとなり居るを以て民間に於ても俗称砂場平より里道橋場に至る迄約一里の間幅二三間の車道となし其道路の両側には三四間置きに日陰となるべき闊葉樹の並木を植付け林内は現在の歩道を瀧の上部まで延長し別に川の左岸に小径を造り帰路に使せしめ、途中或は飛石により或は倒木の自然的な小橋を架し置くを可とす。尚道路の曲点大木の根元等の庇蔭地には、自然的の腰掛を備へ又飲料水と用水とを区別したる標示をなし、瀧の位置休憩所、便所、料理店、ホテル等も各所に標示するを可とす。元来遊園地に於て日傘を用ふる如きは矛盾の骨頂にして欧州等にありては路傍に苹果「りんご」其他の果樹又は日陰樹を植付夏季日傘を用ふる者は馬鹿者と云はれ居る位なり。若し路傍に並木植栽の余地なき所は、並木を植付くるに当たり道路外に二尺乃至三尺位の半円形の土地を造りて比処に植付果実の収入によりて田畑の作物の減收を補ふこととす。

尚田立村の養鯉は将来最も好適にして有望なる事業なれば之が拡張を計り遊覽者に対し鮮魚を供するの設備をなすは、極めて趣味多き事業とす然るに世間往々弊風をなすは多くの遊覽者あるに至れば、不当の利益を貪り価格の不統一を来すにあり。如斯「かくのごとし」は最も注意を要すべき事柄にして土地の繁栄を計らんとせば、必ず物価を統一して購入者をして安心して充分に慰むることを得せしむるにありとす。

備考

(一) 避暑地、遊覽地、回遊線

今日の状態に鑑み、避暑地としては日義村大原を最も好適地と思考するも此短時日の調査に於ては到底正鵠を得たる意見を發表すること頗る困難なりとす。又遊覽地としては田立の瀧、賤母御料林、城山の舊跡を連結したる回遊線を第一に算せざる可らず。

(二) 乗車

回遊線は鉄道、馬車、人力車等連結の切符を發行し歩行乗車等自由に選択せしめ、且之が賃金は一定し置き明かに標示すること最も必要なりとす。

(三) 表示、案内、名物産

遊覽地は全て宿料並に物価等を表示し又遊覽地の案内記を作り地図を挿入して

地理を知悉せしむるに便ならしめ、尚附近遊覽地に於て各種の物等を一定の価格を以て販賣すること等は木曾谷發展の一助となるべし。

(四) 路傍のみみぢ、さくら

遊覽客の増加に供へ路傍のみみぢ、さくら等を折るもの増加すべければ之を防ぐの法を講ぜざるべからず。日光より中禅寺湯本に至る一帯の林内は「紅葉其他の枝」を探るものは警察犯処罰令により二十円未満の料料に処せらるべし日光警察署なる立札を立て二三の犯罪者を徴「め」せし以来今日殆ど全く探る者なきに至れりと云ふ。(終り)

【後記】

今後公園等を造る際このような著書はとても役に立つだろうと思いました。(竹内)

現在の木曾とこの時代の木曾を比較してみたいと思いました。(小林)

現代はデータを用いた調査報告が主流だが、この時代は如何に言葉で伝えるかが大切であることを感じました。(加藤)

本稿の位置付けを別稿「本多静六と関連する長野県内の公園・温泉地・風景地の計画書の目録および現代的価値」に記しました。(横関)